

宮城大学 後援会報

Vol.31

発行
平成22年3月31日

発行者
〒981-3298
宮城県大和町学苑1-1
宮城大学後援会
TEL022(377)8381

編集
宮城大学後援会事務局

事業構想・食産業学部 合同企業説明会 県内外から36企業を招き 初の学外開催を支援

2月23日、情報・産業プラザ(アエル)で事業構想学部・食産業学部の3年生と大学院生を対象とした合同企業説明会を大学と後援会の主催で開催しました。

就職戦線が厳しい中、後援会の御支援をいただき、初めて大学以外の場所での開催となりました。

説明会開催前には、事前講演として「就活ノウハウセミナー」が行われ、参加した学生は、現在の企業が求めている人材や、エントリーシート
の書き方などの話
に熱心に聞き入っ



人事担当者の説明に熱心に耳を傾ける学生



企業ブースがセッティングされた会場=アエル5階、多目的ホール

ていました。

36企業の参加をいただいた説明会は、馬渡学長の参加企業へのあいさつで始まりました。既に東京等に滞在し就職活動を行っている学生もあり、参加者数が心配されましたが、夕方までには約半数の学生が参加し、中には始まりから終わりまで、熱心に各企業を回っている学生もありました。

積極的に各企業を回り熱心に説明に聞き入っている学生の様子を見ると、1回目の説明会の経験を生かし、今回の説明会に臨んだようで、聞き入る態度や質問する様子にも成長のあとが見えました。厳しい就職情勢の中でも、学生は日に日にたくましさを増しているようです。全員

の参加とはいきませんが、参加した学生にとって非常に有意義な説明会になったものと思われ

ます。後援会の就職活動支援に対するご支援に厚くお礼を申し上げます。

(学務課 菅原隆之)



平成21年度卒業式

厳しい就職戦乗り越え、 463人が晴れて社会人に

暖かい春の日差しに恵まれた3月19日、第10回宮城大学卒業式が大和キャンパス講堂で行われました。

この日卒業を迎えたのは、10期生となる看護学部106人、事業構想学部207人と、食産業学部2期生120人の学部生433人に、看護学研究科9人、事業構想学研究科21人の大学院8期生30人を合わせた463人。馬渡尚憲学長は式辞で「県立大学で学ぶ意味は自分のためだけではありません。大学で学んだことをしっかり活かし、社会の主導的な人となって、地域社会・日本社会・国際社会のために貢献されるよう祈っています」と述べ、実社会へ巣立っていく卒業生に

の言葉を贈りました。卒業生を代表して事業構想学部の田邊夏子さんは「宮城大学で得た貴重な経験や出会いを、これからの人生を支える財産として大切に育てて参ります。今後は卒業生として、宮城大学の名を高めることができるよう、誇りを持って、精進を重ねて参ります」と社会人となる決意を述べました。

式には他に伊藤克彦宮城県副知事を始め、来賓、保護者、教職員など多くの大学関係者が出席し、卒業生の門出を祝福しました。

馬渡学長より卒業証書を受け取る学生代表



「宮城大学の魅力」

国際センター専任教授 ティモシー・フェラン

本学に勤務し始めてから1年数カ月が過ぎました。着任当時は無我夢中でしたが、今回は本学の魅力や強み(strength)について以下の4つのポイントに沿って考えてみたいと思います。

まず第1に、環境です。本学は大和町と仙台市のボーダーに立地しておりますが、新幹線の駅は仙台市というイメージが強いかと思います。出張先から仙台に戻ると、いつもおいしい空気や緑の多さ、海や山の近さという恵まれた環境に魅了されます。しかも本学の立地場所も緑豊かな場所で四季折々の美しさがあります。

第2に、ユニークな学部編成です。私の前職は金融関連でしたが、「分散投資」という概念がありました。その点と本学の3学部は共通しています。看護学部、事業構想学部、食産業学部というそれぞれ異なる分野に分散して教育・研究を行うこと事態、一つの分野に偏らずに社会貢献できるという点で大変意義深いと思われまます。

第3に、人材について述べます。本学の学部が多岐分野に渡っているため、時々驚くような分野を研究している人材に会い、感動を覚えることがあります。また、事務の方々も優秀な方が多く、まだ不慣れな私に柔軟に対応していただいています。そして、中国、韓国、ベトナムから40人以上の留学生が在学していますが、同じアジア出身でも物事を見る視点の相違があるということ気付かせてくれます。

4点目として本学の将来性について述べます。本学は創立13年のまだ若い大学です。物事の方向性を強く縛る組織風土は他大学と比較し、まだないと思われまます。その点柔軟性があり、いかようにでも組織風土やキャンパスカルチャーを育てていく可能性があり、将来性のある大学と私は確信しています。

ティモシー・フェラン

昭和32年生まれ米国コネティカット州出身。19歳の時、日本に1年間留学し、日本文化の魅力に気づきました。米国大学院で神学専攻後、日本に戻り、東京都内及び近辺の大学で英語やコミュニケーション論等を14年間教えました。その後、アメリカに帰国し、ビジネス界にキャリアを方向転換したものの、日本に対する愛着心は、日々募るばかりでした。そこで、日本に支社を持つアメリカ企業に転職し7年間東京で、営業部、社内広報、人事部で働いた後、20年10月より宮城大学国際センターの教員になりました。



昨年11月「留学生遠足」で平泉へ。フェラン先生(左下)と宮城大1年、留学生のみなさん

■平成21年度 就職内定状況

平成22年3月5日現在

学部・学科・コース		卒業予定者数	進学希望者数	就職希望者数	内定者数	内定率	前年度同期	前年度最終	
看護学部	看護学科	106	7	97	94	96.9%	94.2%	100.0%	
事業構想学部	事業計画学科	106	9	90	84	93.3%	97.4%	98.7%	
	デザイン情報学科	情報システムコース	17	3	11	10	90.9%	100.0%	100.0%
		空間デザインコース	48	10	35	31	88.6%	80.0%	84.0%
		デザイン情報コース	36	2	29	26	89.7%	87.1%	93.3%
食産業学部	ファームビジネス学科	39	4	30	26	86.7%	100.0%	100.0%	
	フードビジネス学科	48	7	38	38	100.0%	97.8%	100.0%	
	環境システム学科	33	8	24	21	87.5%	100.0%	100.0%	
学部計		433	50	354	330	93.2%	94.8%	98.0%	

研究科		卒業予定者数	進学希望者数	就職希望者数	内定者数	内定率	前年度同期	前年度最終
看護学研究科		9	0	1	0	0.0%	0.0%	100.0%
事業構想学研究科		21	1	12	10	83.3%	92.9%	92.9%
大学院計		30	1	13	10	76.9%	76.5%	94.1%

※進学・就職希望者以外の者は社会人学生、資格・試験準備、留学検討中等の学生

小野寺望美さん
(フードビジネス学科卒)



理研ビタミン(株)
業務用食品
営業部勤務

お客さまに頼りにされる営業マンを目指したい

平成20年度フードビジネス学科卒業の小野寺望美です。現在は理研ビタミン株式会社業務用食品営業部に所属しています。居酒屋チェーンやレストランなどの外食、工場や病院などの産業給食に対する業務用食品の提案・販売が主な業務です。

食のプロがお客さまということもあり、知識や情報が求められます。特に、弊社は事業領域が広く、ものづくりを大切にしている社風なので、営業であろうと技術的な知識や創意工夫が重要です。

有り難いことに私は、「失敗しても構わないから現場で、お客さまから学ばせてもらえ。1人の失敗くらいでは会社は潰れない」という上司の教育方針により、同期の中でも最も早く担当を持たせていただきました。日々、お客さま、会社、自分にとってのベストを模索し、失敗を繰り返してばかりいます。しかしながら、自分の提案した商品やメニューをお客さまに採用していただけることは素晴らしい達成感があります。早い段階からお客さまとのやりとりを行う中で、お客さまの要望はもちろん自社について掘り下げて考えることもできました。

今後はお客さまが困った時にまず相談してみよう！と思っただけのような営業を目指していきたいと思っます。

中嶋祐子さん
(環境システム学科卒)



JR東日本 盛岡土木技術
センター企画科勤務

苦手だった分野に日々充実感

大学を卒業して、早くも1年が経ちました。大学の4年間もあっという間でしたが、社会人となってからは時の流れがより速く感じます。気付いたら仕事で締め切りや期日を迎え、期限ギリギリで大慌てなのは学生の頃と全く変わってないです。

私は現在、鉄道のトンネルや橋梁等といった構造物の管理・メンテナンスを主な業務とする職場で働いています。学生の頃は正直なところ、土木の分野は全く興味もなく、苦手というか嫌いでした。しかし、農水省の工事現場で実習したのがきっかけで、土木も悪くないかなあ…と思うようになり、この業界を志望するようになりました。苦手な分野に就職してしまいましたが、日々勉強になるような貴重な体験が多くて充実しており、逆に私にとって良い選択でした。大学で勉強した土質力学や測量などが業務に直接係わることもあり、授業を受けていて良かったと思うこともありました。

土木の現場は事故の芽が潜んでおり、一歩間違えると自分たちやお客さまの事故につながってしまいます。今後もっと知識や技術を身につけ、安全を第一に工事の設計や監督ができる技術者を目指していきたいと思っます。

平成22年度後援会総会を開催します

平成22年4月5日(月)午後3時10分より大和キャンパス講堂において、新会員を迎え、平成22年度後援会総会を開催致します。議題は平成21年度の事業報告・決算報告と平成22年度の事業計画・予算案などです。御出席くださいますよう御案内致します。

社会人として歩み始めて



食産業学部一期生 129 人が実社会へ出て 1 年が経ちました。6 人の方にご登場いただき、社会人として歩み始めた日々を紹介していただきました。

高橋のぞみさん
(ファームビジネス学科卒)

(株)日比谷花壇
北日本事業部勤務



学びの成果を仕事に活かして

私は日比谷花壇に就職し、現在は結婚式の装花を担当する部署で勤務しています。希望していたブライダル関係に配属され、嬉しかったものの、入社当初は想像以上の大変さに驚きました。全てが初めての私は結婚式の流れすら知らず、どう動いていいかわかりませんでした。先輩方が優しくアドバイスしてくれ、徐々に業務ができるようになりました。花束や卓上花の制作も初めてでしたが、大好きな花に触れることができ、技術向上を目指して練習するのがとても楽しいです。また、毎週花を仕入れる中で多くの品種を見ることができ、大学時代に学んだ植物育種も仕事で活かしていると思います。

新郎新婦様にとって特別な一日に関わるため、失敗の許されない仕事ですが、その分大きなやりがいを感じます。幸せそうなお2人の姿、お客さまの嬉しそうな姿を見ていると私も元気をもらうからです。

私の今後の目標は打ち合わせに出て、新郎新婦様に「素敵なお花」を提案していくことです。どんな花が素敵に感じるかは人それぞれなので、お2人の希望に合った空間、お2人らしさの出せる結婚式を花で演出していこうと思います。挑戦する機会が多く与えられているので、何事にも積極的にチャレンジしていきたいです。

菅原康裕さん
(ファームビジネス学科卒)

あすか製薬(株)勤務



目標を決めるのは自分

私は去年、あすか製薬株式会社にMR (Medical Representatives=医薬情報担当者)として入社しました。社会人となり、はじめに感じたことは「ゴールがみえないこと」でした。それまでの学生時代には何年か後には必ず卒業(=ゴール)があって、それを目標にそのときどきにすべきことをしていました。しかし、社会に出るとそれがありません。ゴールは自分で決めるものとなります。それを知らずにただ走っていた私は、どこに行くべきかを見失ってしまいました。これが社会人になって最初にぶつかった壁でした。

これから社会に出られる後輩の皆さんは、まず社会に出てからの目標を決めてはいいでしょうか。何年後にどうなっていたいのか、この仕事で自分はどうなりたいのか、などを考えてみてください。そうすることで、拘束時間が多い中にもそれに向かったの努力ができるようになるはずです。何となく過ぎそうと思えばいくらでもできてしまうからこそ、後輩の皆さんにはそのような心構えを持って過ごしてほしいと思います。

私の今の目標は海外留学することです。社内でたまたま当てるはまる枠があったので、挑戦しています。日々の仕事とそれを両立させるのに必死ですが、楽しいです。今はこんな感じで、学生時代に負けないくらい楽しく貴重な新社会人時代を作り上げるべく、日々、励んでいます。

小野美貴さん
(フードビジネス学科卒)

(財)日本食品分析センター
多摩研究所業務課勤務



毎日が真剣勝負

現在、主に食品を取り扱う検査・分析機関の受付業務担当として勤務しています。職務は、試験依頼の受付、窓口または電話による分析相談、弊財団に郵送されてきた検体の仕分けなどです。財団では、食品に限らず、食品に接する容器・包装、また医薬品・化粧品関係や医療用機器等の分析も行っているため、分析項目は多岐に渡り、お客さまに適切なアドバイスをするためにはさまざまな分析方法を理解し、幅広い知識が必要となります。学ぶべきことは山ほどあり、自分の未熟さを思い知らされる毎日です。

私が社会人になって最も強く感じているのが、「毎日が真剣勝負」だということです。つらく、くじけそうになっても立ち止まっている暇はありません。学生時代とはまるで違う、社会の厳しさをこの一年で幾度となく痛感しました。そんな折に、自分を支えてくれるのは、今でも連絡を取り合っている大学時代の同期の仲間たち、後輩、先生方、そして家族です。社会に出て初めて、多くの人々の支えがあってこそ自分が成長してこれたのだと、身にしみて感じられるようになりました。

私の地元は仙台でしたので、東京での初めての一人暮らしに加え、慣れない環境ということもあり、自分のペースを掴むまで半年ほどかかりました。今では会社の同期や先輩方との交流も増え、充実した毎日を送っています。

今後初心を忘れることなく、自分を磨き続け、精進していきたいと思っています。

小野寺 努さん
(環境システム学科卒)

宮城県北部地方振興事務所
農業農村整備部勤務



時間の大切さを痛感する日々

県に就職して早くも1年が経とうとしていますが、時の流れは早いものです。大学に入学したときや、仲間と過ごした日々が昨日のように思い出されます。

私は今、大崎市古川の合同庁舎内にある北部地方振興事務所、農地整備の監督員をしています。主な仕事は圃整備といって、水田の生産性を高めるためなどに行う整備工事の発注です。またそれらの工事が発注通りに行われているか、測量などをして管理することも仕事の一つです。責任重大で、就職して初年の私には荷が重い仕事ですが、日々職場の先輩に支えられながら取り組んでいます。

大学を卒業し、社会人になって気付いたことがありました。それは時間の大切さです。大学時代には自由な時間がたくさんあり、友人と旅行などで過ごしました。大学は専門知識を深める場ですが、私はそれよりも自分の趣味に時間を費やせる場であった気がしています。

大学時代に比べて社会人になってからは時間や行動の制限も増えましたが、それと同時に、時間が前よりも濃く感じられるようになりました。何となく過ぎていた日々も、今ではやりたいことといっぱいで、学生時代よりも充実していると言っても過言ではありません。

学生や社会人の違いは、人の価値観によって大きく変化するものですが、一つだけはっきり言えるのは、学生時代は今しかないということです。一瞬しかない今を無駄に過ごすのではなく、心から楽しんでもらいたいですね。

デザイン情報学科空間デザイン・コース デザイン情報コース卒業研究・制作展 つながりを込めた 作品を揃え、75人展



老人福祉施設と児童福祉施設をつないだ空間デザイン



人と環境をつなげるペットボトルの情報デザイン



2月19日(金)から23日(火)まで、せんだいメディアアテークにおいて「宮城大学空間デザインコース・デザイン情報コース卒業研究・制作展+大学院事業構想学研究所修士制作展」を開催しました。事業構想学部デザイン情報学科の10のゼミ・学生73人と大学院生2人が1年間の成果を展示し、会期中715人の方々にご覧いただきました。

今年の卒業研究・制作には、表題に「つながり」を意味

する言葉を使った作品がいくつも見られました。私たちは多くのモノや情報の中で生活していますが、これらを十分に活かしていないように思います。また、人と自然、人と人との関係も以前より希薄になっていると聞かれます。

会場では、これらの社会問題を「つながり」をキーワードにして解決しようとした興味深い作品が見られました。用途が異なる施設をつなぎあわせていながらそれ

ぞれの利用価値を高める公共空間の設計。人と自然環境のつながりを意識させるペットボトルのラベルデザイン。人と人のつながりが深まる感謝の気持ちを表現した贈答品のパッケージデザインといった制作です。

多くの学生は4月から社会人になりますが、実社会においても、モノや人の「つながり」を大切にしたいと思えます。

(デザイン情報学科助教 相模蒼雄)

平成21年度年度卒業記念事業を行いました。

- ♪卒業生へ記念品贈呈：パーカー1万筆
- ♪大学へ記念品贈呈：大和キャンパス モバイル用プロジェクター(1台) 太白キャンパス 木製キャンパスベンチ(3基)
- ♪謝恩会費用の一部を助成しました

編集後記

本紙の取材に快く応じてくれた食産業学部1期生の皆さん。すっかり社会人らしさが身に付いた対応の仕方や、目的意識をしっかりと持って進む姿に、感心させられました。就職氷河期と言われた就職戦を乗り越え、今年も宮城大生が社会へと巣立って行きました。先輩同様、今よりもっと素敵な姿を見せてくれることを期待したいと思います。

新年度も本会の活動や大学の様子に加え、卒業生の紹介など、充実した紙面作りを心掛けて参りたいと思います。皆さまのご意見、ご感想をお寄せください。

(S・I)

教員からの一言

豆電球を電池につなげば点灯し、模型用モータをつなげば回ります。当たり前のことだが、携帯電話やパソコンがネット世界への「窓」として日常に埋め込まれてしまった今日、多くの学生は、テクノロジーを裏で支える諸要素について、知識としては知っていても、身体をとおして経験したことは少ない。

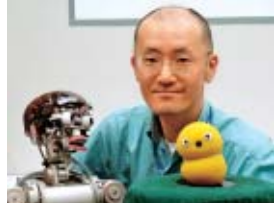
モノやサービスを企画・開発する能力は、宮城大学が重視する教育目標のひとつである。本学が掲げる実学の観点から言い換えれば、それは知識に裏打ちされた「現場感覚」であり、生活者のリアリティを捉える「身体感覚」であろう。知識としてのテクノロジーだけでなく、これら感覚—まとめて「アナログ感覚」と呼ぼう—に根ざした想像力と行動力が、モノやサービスをデザインする人間の備えるべき資質なのではないだろうか。

かつての日本は「アナログ感覚」に満ち、活気に溢れていた。だが最近ではリアリティからかい離し、さまざまな努力が空回りしている。地に足をつけ、また力強く前進していくためには、何よりもこの「アナログ感覚」を取り戻す教育が必要だろう。

実学とアナログ感覚

事業構想学部デザイン情報学科教授

小嶋 秀樹



小嶋先生と小嶋研究室のロボットたち

小嶋先生と小嶋研究室のロボットたち

4人と6団体が受賞 学長賞・学長奨励賞2009

在学中に研究活動・課外活動・社会活動において顕著な成果をおさめ、大学の名誉を高めた学生に対して、学長賞・学長奨励賞が贈られます。今年度はスポーツサークルでは初の受賞となる、看護学部4年の佐藤有華さんをはじめ、学生4人と6団体が受賞しました。

学長賞

- **佐藤有華** (看護学部4年)
「天皇賜杯 第78回日本学生陸上競技対校選手権大会」(インカレ)の出場を始め各種大会に出場し優秀な成績を修めるとともに、大学の名誉を高めた
- **ART STANDARD** (大和大学生サークル45人)
泉中央セルバのフリーペーパーの編集、みやぎ仙台商工会主催イベント「泉マルシェ」の運営サポートなどで、地域貢献を果たす
- **コンビニ弁当プロジェクトチーム** (食産業学部学生任意団体31人)
大手コンビニエンスストアと共同で商品開発を行い地域へ貢献すると共に、テレビ番組やCMに出演し、宮城大のPRに大きく貢献した
- **子どもサマーキャンプボランティアチーム** (看護学部学生任意団体8人)
NPO法人難病の子ども支援ネットワーク主催によるサマーキャンプ「がんばれ共和国」にボランティアとして参加し、難病や重度の障害を抱える子どもとその家族のキャンプ活動を支える大きな戦力として社会貢献を果たした

学長奨励賞

- **せんだいデザインリーグ2009卒業設計日本一決定戦実行委員** (学生任意団体35人)
世界的に評価の高い建築系学生の卒業コンペティション「せんだいデザインリーグ2009」の開催、運営を行い、建築デザイン教育会へ大きく貢献した
- **「ドコモカップ東北」参加チーム** (デザイン情報学科学生任意団体3人)
NTTドコモが主催する、優れたデジタルクリエイターの人材発掘・育成を目的に行われるコンテスト「第9回ドコモカップ東北」FOMAIアプリ部門でグランプリを受賞。宮城大の名声を著しく高めた
- **劇団「おにぎり」** (太白学生サークル)
人形劇を地域の幼稚園、保育園、小学校など各地で公演し、宮城大の名を広め、社会貢献をした
- **高山 桂** (環境システム学科3年)
宮城米マーケティング推進機構が行う、宮城米を全国にPRするキャンペーンのキャラクターとして、各地でPR活動を行い、社会活動において顕著な成果を上げるとともに、宮城大の広報に広く貢献した
- **荻生 隼太郎** (事業構想学研究科前期2年)
宜野湾市まちづくりアイデアコンペ 審査員特別賞受賞、第3回未来エレベーターコンテスト最優秀賞受賞など高度な実学による研究成果を十分に発揮した
- **込山 絵美** (事業構想学研究科前期2年)
第11回シェルター学生設計協議2009において優秀賞を受賞。世界的に有名な建築家から高い評価を受けるなど、建築デザインを学ぶ後輩の大きな励みとなった